

新版 中学社会・学力補強 5 分間プリント

グラフの読み書きスキル 日本地理編

特長

- ①【グラフの変化の傾向5つ】と【グラフの割合の計算式】付き
- ②巻末に【割合換算表】付き
- ③資料は全て教科書掲載順、2020 年度の教科書よりも最新の資料を使用
- ④スキルとは、「技能」という意味で、中学校社会科における学習観点の一つ「資料活用の技能」を鍛える教材
- ⑤作図では目盛りを丁寧に読まなければならないので、集中力も鍛えられる

使い方

- (1) 定規を使ってグラフを作図する。
- (2) 表や文章の空欄に言葉や数字を当てはめる。
※ (1) (2) は順番が逆でも良い。
- (3) できたら、先生の持っている答えを見て、自分で丸付けをする。
- (4) 間違えていたら直す。
- (5) 早く終わったら、表やグラフに色鉛筆で色を塗り、
「一目でわかりやすいグラフ」になるように工夫する。
- (6) 解答については、「グラフの読み書きスキル日本地理編（解答）」を見る。

CONTENTS

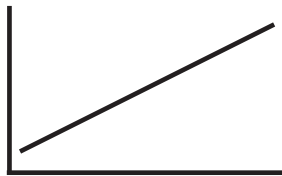
- | | |
|----------------|--------------|
| 0. 九州地方の工業（手本） | 9. 中部地方の工業② |
| 1. 九州地方の工業 | 10. 関東地方の人口① |
| 2. 九州地方の農業 | 11. 関東地方の人口② |
| 3. 中国・四国地方の農業 | 12. 関東地方の農業 |
| 4. 近畿地方の農林業 | 13. 関東地方の工業① |
| 5. 近畿地方の工業リ | 14. 関東地方の工業② |
| 6. 中部地方の農業① | 15. 東北地方の産業 |
| 7. 中部地方の農業② | 16. 北海道地方の産業 |
| 8. 中部地方の工業① | |



★ 覚えておこう ★

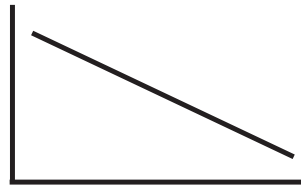
【グラフの変化の傾向は5つ】

ア 全体の傾向①



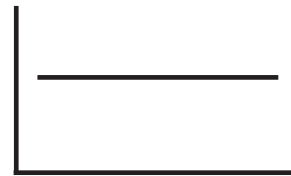
段々上がる

イ 全体の傾向②



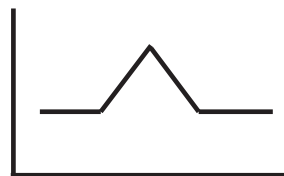
段々下がる

ウ 全体の傾向③



変化なし

エ 個別の変化①



突然上がる

オ 個別の変化②



突然下がる

【帯グラフ・円グラフの割合の計算】

全体の量×割合（小数）＝1つの項目の量

割合の順位と量の順位は一致しないことがあるので、注意が必要である。
また、その他は順位に含まれない項目の合計であるので、順位に含まない。

0九州地方の工業(手本)

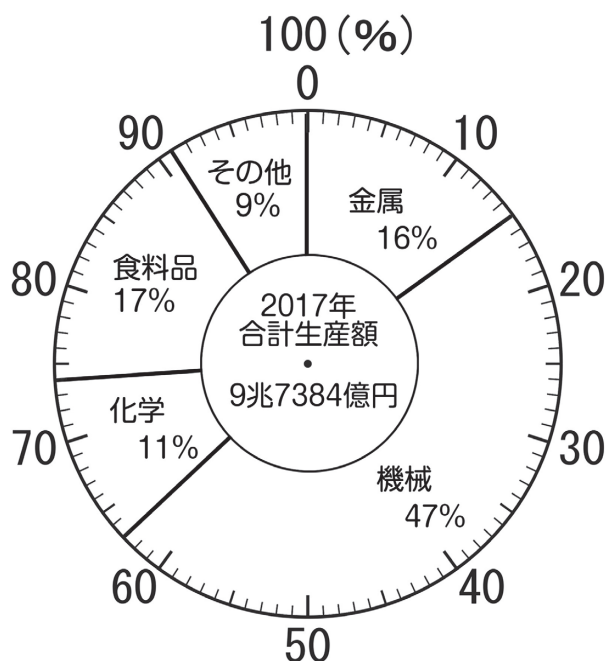
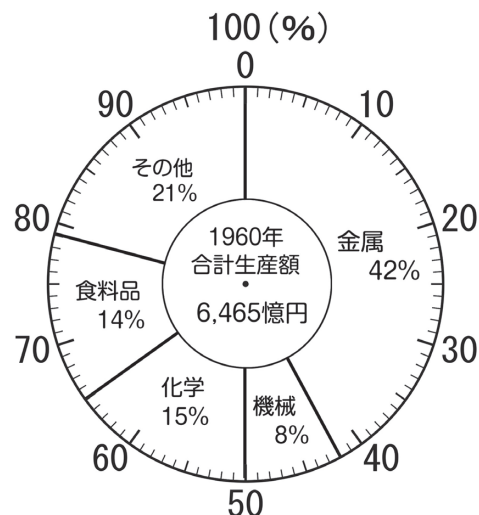
学習日： 月 日

(1) 福岡県の工業生産割合の変化

項目	1960年	2017年
金属	(42 %)	16 %
機械	(8 %)	47 %
化学	(15 %)	11 %
食料品	(14 %)	17 %
その他	(21 %)	(9 %)
合計生産額	(6,465億円)	9兆7,384億円

(「工業統計調査」による)

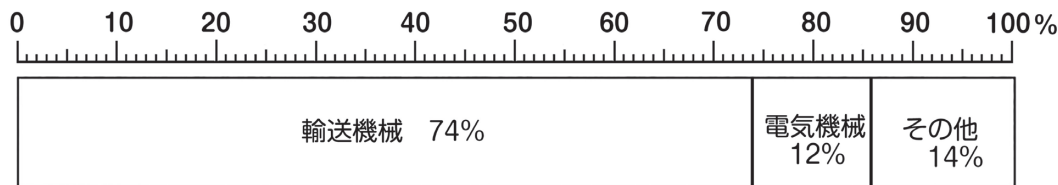
このプリントは「1 九州地方の工業」の書き方手本です。まずはこれから「グラフの読み書きスキル」を学習するための書き方、読み取り方を練習しましょう。



(2) 福岡県の工業生産に占める機械工業の内訳

2017 年

項目	割合 (%)
輸送機械	74
電気機械	12
その他	14



(「工業統計調査」による)

【まとめ】九州第一の工業県である福岡県では、かつては（ 金属 ）工業が盛んであったが、近年では（ 機械 ）工業の生産割合が最も多い。特にその中でも（ 輸送機械 ）の割合が多く、福岡県の機械工業の生産額の（ 7 ）割以上を占めている。これは九州北部に自動車工場の進出が増え、自動車産業が発展しているからである。

1 九州地方の工業

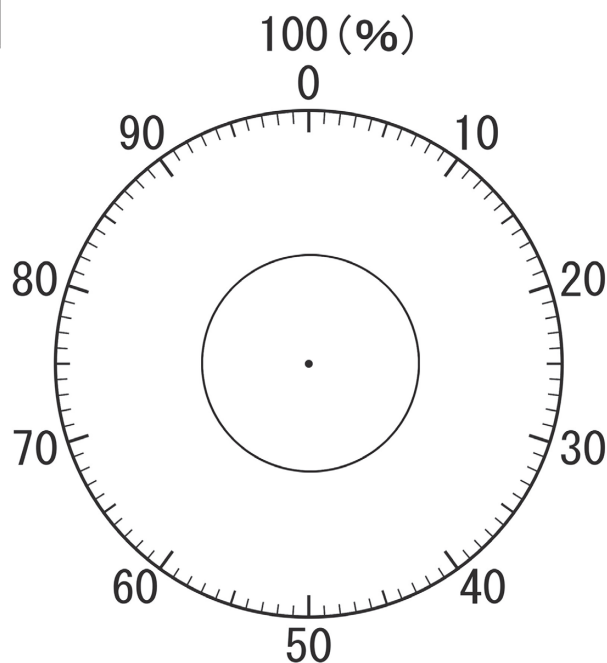
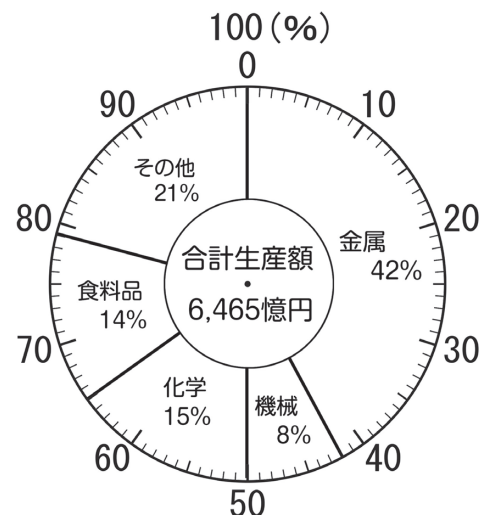
学習日： 月 日

(1) 福岡県の工業生産割合の変化

項目	1960年	2017年
金属	()	16%
機械	()	47%
化学	()	11%
食料品	()	17%
その他	()	()
合計生産額	()	9兆7,384億円

(「工業統計調査」による)

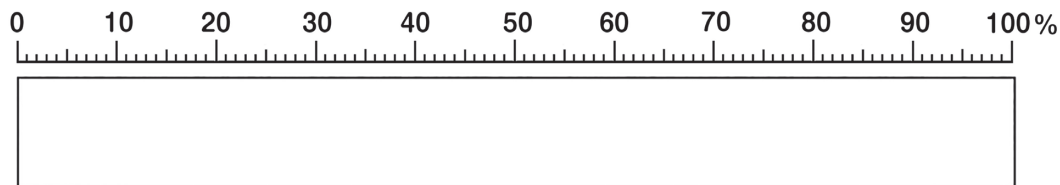
このページは、これから「グラフの読み書きスキル」を学習するための書き方、読み取り方の練習ページです。前のプリントの書き方手本を見ながら練習しましょう。



(2) 福岡県の工業生産に占める機械工業の内訳

2017年

項目	割合 (%)
輸送機械	74
電気機械	12
その他	14



(「工業統計調査」による)

【まとめ】九州第一の工業県である福岡県では、かつては()工業が盛んであったが、近年では()工業の生産割合が最も多い。特にその中でも()の割合が多く、福岡県の機械工業の生産額の()割以上を占めている。これは九州北部に自動車工場の進出が増え、自動車産業が発展しているからである。

ヒント：巻末の【割合換算表】を参考にしてみよう。